

大きな写真の魅力

大きな画像は迫力、臨場感があるのはなぜでしょうか？

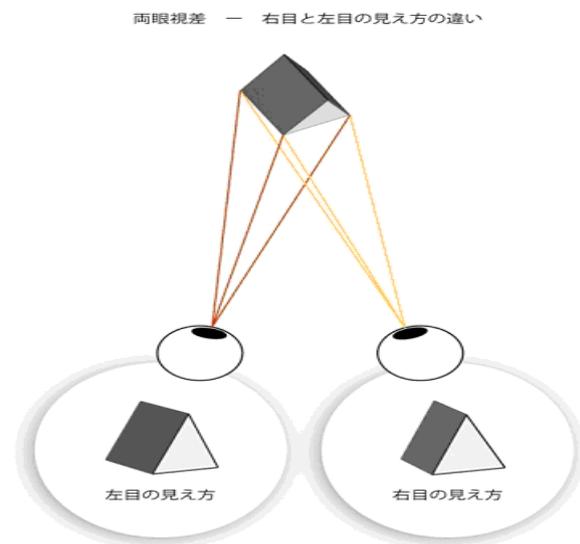
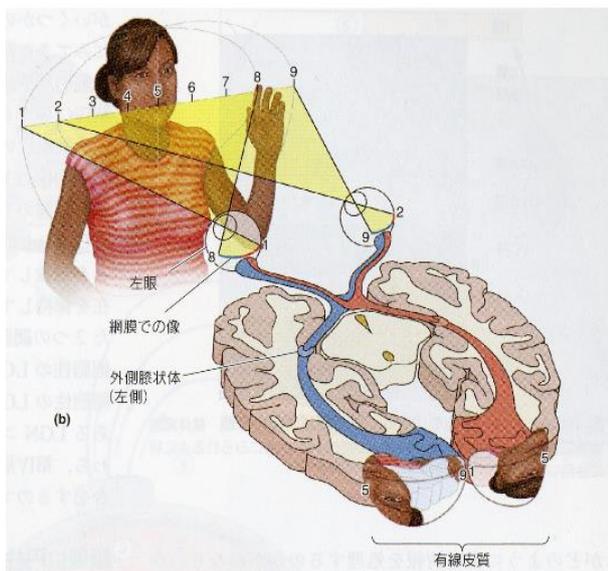
目に映った画像は網膜で信号に変換され軸索と呼ばれる線路を通じ中脳の外側膝状体へ送られ情報処理が行われた後、第一次視野野に送られそこで画像構築が行われていると考えられている。

右目の画像と左目の画像のわずかな違いがあると三次元画像構築が、ここで行われていると考えられている。

人間の目は6cm（人によって異なる）ほどの間隔があるので大きな画像を見ると左目の画像と右目の画像では、ずれが発生するため三次元画像構築効果が働きスケール感を感じると思われる。

最近流行の3D映画やTVは、まさにこの原理を応用し近くの画像は右目の画像と左目の画像のずれを大きくし、遠くの画像はずれを少なくし、液晶シャッターメガネで画面に同期させ切り替えることにより3Dを実現している。

今回の二人展では人の目の画像構築効果を生かした迫力ある作品づくりをめざし、構図の研究や解像力を確保するためのレンズやカメラの解像力測定や撮影テクニックに取り組んでいます。



出典

- ① Donald D. Hoffman 博士 カルフォルニア大教授の著書”視覚の文法”（脳が物を見る法則）
- ② ロバート・L・ソルソ 著（鈴木/小林共訳）『脳は絵をどのように理解するか』
- ③ フォトクラブ 大美野写楽会 会長 藪 利臣 氏 より提供